

## 事業概要 【統合フロントアプリ構築事業】

実施地域	長野県長野市	事業費	22,254千円
実施主体	長野市、連携事業者	人口	369,027人 (2022年12月1日時点)
事業概要	<p>本市における行政経営の課題として、住民への効果的な情報発信や住民からの意見を活用するための仕組みが不十分であることが挙げられる。本事業では、行政情報の一元化、個人のニーズにフィットした情報提供及び住民と行政のコミュニケーション機会の創出のため、他事業との接続も可能な統合フロントアプリを構築し、効果的で効率的な行政経営と住民接点の増大を目的とした高次元での「住民サービスDX」を実現する。</p>		
具体サービス	<p>【統合フロントアプリ構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な自治体サービスの共通窓口としてASP型ポータルサービス（統合フロントアプリ）の構築</li> <li>住民の属性や関心ごとに合わせたプッシュ通知の実施</li> <li>住民と行政の双方向コミュニケーション</li> </ul>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 統合フロントアプリのダウンロード数</li> <li>② 統合フロントアプリの週間アクティブユーザー率</li> <li>③ 統合フロントアプリ内での住民からの回答数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 統合フロントアプリの利用に関する住民満足度</li> </ol>	

# 事業概要 【公共施設DX事業】

実施地域	長野県長野市	事業費	45,600千円
実施主体	長野市、連携事業者	人口	369,027人 (2022年12月1日時点)
事業概要	<p>本市における行政経営の課題として、公共施設のデジタル化が進んでいないこと、そのために住民にとって使いやすい施設となっていないことが挙げられる。本事業では、公共施設のスマート化を通じて、住民が予約・利用しやすく行政が管理しやすい「公共施設DX」を実現し、利用者層の拡大や公共施設自体の価値向上を目指す。</p>		
<p>具体サービス</p>	<p>【公共施設DX】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設の共通予約システムの構築</li> <li>スポーツ施設へのスマートロック導入（次年度以降他の公共施設へ順次拡大予定）</li> <li>予約システム・スマートロックと連携した決済システムの導入</li> <li>スマートロック導入に係る通信環境の整備</li> <li>オンライン利用者登録におけるマイナンバーカード活用</li> </ul>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>公共施設DXサービスによるオンラインでの利用予約数</li> <li>公共施設の利用率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「共通予約システム及びスマートロックの導入によって施設利用がしやすくなった」と回答する住民の割合</li> </ol>	

# 事業概要 【親子成長DX事業】

実施地域	長野県長野市	事業費	46,279千円
実施主体	長野市、連携事業者	人口	369,027人 (2022年12月1日時点)
事業概要	<p>本事業では、次代を担う子どもとその保護者を中心に据え、住民自らが進んで各種サービスを十分に活用できるための環境整備として「①マイカレンダーサービス」を提供し、「②AI活用型相談支援サービス」と一体的に連携していくことで、住民と自治体、自治体担当課間の双方のデータ連携を推進し、住民一人ひとりに対し寄り添える住民サービスの基盤を構築する。</p>		
<p>具体サービス</p>	<p>【■ サービス① マイカレンダーサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親子のライフイベントに対し手続やサービスをアプリで提供</li> <li>年齢や家族構成など個人に合う情報を市からプッシュ配信</li> </ul> <p>【■ サービス② AI活用型相談支援サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイカレンダーの連携テーブルとAI相談業務支援が連携し、支援が必要な住民へのプッシュ型支援</li> </ul>	<p>The diagram illustrates the data integration between two services. At the top, a 'Unified Front-end App' (labeled as a separate project) connects to a central 'Database'. On the left, 'Municipal Offices' (各課) manage information, which is collected into the database. This database feeds into 'Service 1: My Calendar Service' (a portal site), which provides push-type information notifications to 'Residents'. Simultaneously, 'Service 2: AI-powered Consultation Support Service' uses AI to analyze consultation records stored in the database, providing 'Alert Notifications' to 'Staff' (担当課職員) for 'Consultation' (相談) and 'Visit/Response etc. Push-type Support' (訪問・対応等プッシュ型支援) to 'Residents'.</p>	
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① マイカレンダーサービス（ポータルサイト）のアクセス数</li> <li>② AI活用型相談支援サービスの利用者数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① マイカレンダーサービス（ポータルサイト）の利用に関する満足度</li> <li>② AI活用型相談支援サービスへの満足度</li> </ol>	